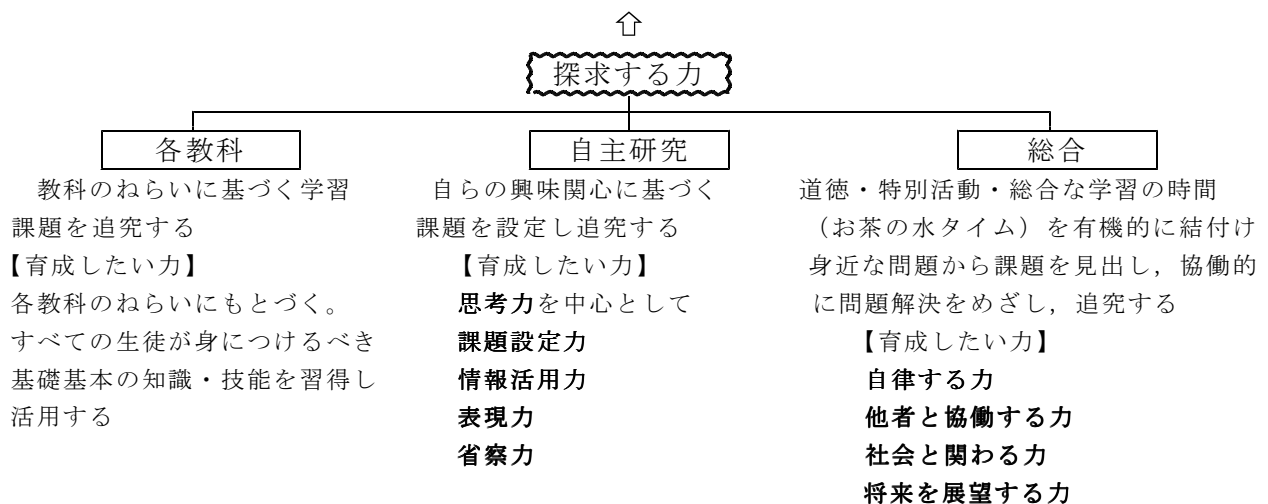
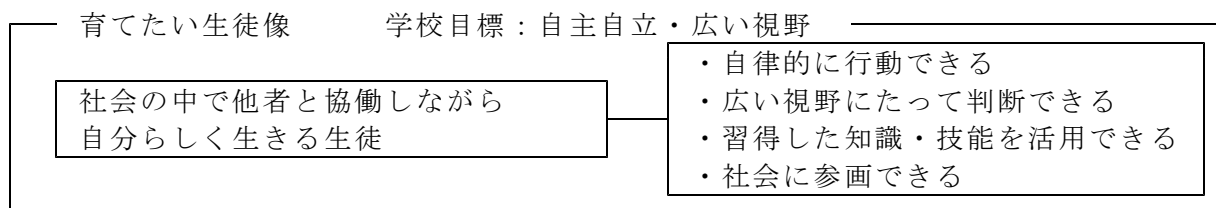


- 1 派遣期日 平成23年11月11日（金）
- 2 研修先 学校名 お茶の水女子大学附属中学校
所在地 東京都文京区大塚2-1-1
- 3 研修内容

お茶の水女子大学附属中学校 文部科学省研究開発学校発表会
 研究主題 「探求する楽しさ」を見出す主体的な研究活動
 ～「自主研究」を中心とした教科と総合をつなぐ
 統合型教育カリキュラムの開発～

（1）研究内容の概要

○研究の全体構造



○【教科】について

- ・探求の楽しさ

授業づくりにおいては、教科の中で「探求の楽しさ」を見出すために、以下の点をポイントとして実践を行っている。

- ア 生徒がやってみたいと思う「学習課題」の工夫
 - 課題の与え方で、生活とつながる課題を開発
 - 必然性が感じられたり、学ぶ意欲を高める工夫
- イ 生徒が主体的に活動する「学習過程」の工夫
 - 課題をとらえ、追究・探究して解決するという学習の流れを工夫
 - 「教科内容を理解する過程で、取り組ませる学習活動」や「学習課題を解決・達成する課程で取り組ませる学習活動」の工夫
- ウ 学習成果の表現・発表やふりかえりの工夫
 - 活動のゴール（達成目標）としての表現や発表
 - 学習成果を自ら確かめて次の探究につなぐ振り返りの工夫
 - 自己達成感や自己効力感の高揚

(2) 公開授業参観

○第2学年・体育 授業者 宮本 乙女 教諭

○単元名 柔道

○本単元における「探求の楽しさ」を見出す工夫

- ・生徒がやってみたいと思う「学習課題」の工夫

生徒同士で探求する活動（課題解決）を取り入れる。2人組の練習やグループ活動の中で考えた結果を発表し合ったりする場面を作る。また、授業の中では常に「こう動くのだ」でなく「どう動く？」と問いを投げかける事を意識して指導する。課題は、柔道の対人技能を中心としたものを設定する。

- ・生徒が主体的に活動する「学習過程」の工夫

グループで取り組むべき、課題を設定した授業では、教師が技などについて基本的な動きのみ示し、そのより効果的な動きの探求の課程の工夫を生徒のグループ活動に預けていく。従ってそれが円滑に行えるように、活動の仕方を教える事が大事である。主将（整列やグループの活動場所への移動や、話し合いの司会）、学習カード係（カードを配布したり、集めて置き場におく）、準備運動係（ジャンプ、組み手、ストレッチ、後ろ受け身）が上手く機能するよう援助する。

- ・学習成果の表現、発表や振り返りの工夫

小さなホワイトボードを利用して、自分たちの班の提案を掲示したり、発表は必ず実技を伴って発表するようにして、わかるだけでなく体で表現できることを重視する。また、見つけた提案をお互い認め合い、つかんだ内容を、もう一度身体活動でフィードバックするところを大切にする。

○本時のねらい

- ・2人組の受け身を中心に、受け身の基本と、相手を投げるときの基本を身につける。
- ・初めての投げ技「大腰」を学び、どのようにすると技がよくかかるのかを考える。
- ・準備運動から片付けまで班で協力し合って行う。

○授業の様子

なかなか自分の動きを客観的に判断することは難しいが、自分が積極的に友だちの動きを、視点を持って観察することや、友だちにその内容を伝えたりすることなどを通して、記録カードには、かなりよく分析している様子がみられた。お互いの観察を義務づけることにより、そのような姿勢と、方法が身についていくのではないかなと思われる。授業の中では、グループ観察が主な手段となっているが、VTRや連続写真に撮ったりして、さらに、自分の中にビジュアルなイメージを持てるようにしていた。

4 感想

今回の研修で「探究の楽しさを見出す主体的な研究活動」に焦点をあて、自主研究につながる教科の探究のあり方の見直しをはかり実践している、お茶の水女子大学附属中学校で参観することができ、生徒が意欲をもてる学習課題の工夫、生徒が主体的に活動する学習過程の工夫、学習成果の表現・発表やふりかえりの工夫に取り組んでいる姿が多く見られ印象的でした。探究の楽しさを経験させるために様々な工夫を試みることを通して教員自身も探究の楽しさを感じ、生徒に身に付けさせたい言語力や論理的な思考力などを意識しやすくなったのではないかと考える。研究授業については、授業展開だけでなく生徒の活動や小さな変化についても話し合うことで、授業づくりの視点を検討したり生徒理解をする場となっており、教科の枠をこえた教員の学びの場となっていた。